

インターバンクの声（2015 年 1 月 22 日）

LIBOR^{※1} やロンドン・フィクシング^{※2}に関わる不正取引が問題化したこともあって、為替や債券のディーラーやセールスの間で、以前は何気なく交わされていた情報交換が非常に難かしくなってきた。たとえ噂の範疇だと思って交わした情報が、後にたまたま結果として事実であったことが元になって取引が成立したという事にでもなれば、インサイダー情報の漏洩として立件される可能性もあるからだ。当事者間でしか知らない特定の情報が洩れるのは明らかに問題だが、為替や債券での買いや売りのオーダーが多く固まっていると想定される価格帯の意見交換にも神経質になっている。事実と想定との線引きが難しい以上仕方ない部分もあるが、昨今の為替取引レンジが異様に広がりつつあるのは、ボラティリティーが上昇してきたことだけが原因ではないようだ。

※1 London Interbank Offered Rate, ロンドンでのインターバンク取引で資金の出し手側の銀行から提示される金利

※2 ロンドン市場の午後 4 時に、主に投資資産向けの評価ベンチマークにされる為替レート（東京市場で午前 9 時 55 分に発表される為替仲値レートに近い）

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。